

【要配慮者支援の視点による避難所生活における留意点等について】

1. 子どもの心身の健康状態を把握し、必要に応じて心身の問題に対応できる専門家、医療機関等と連携をする。

○どのような子どもがいるかを把握する。

- ・年齢、家族構成、病気や薬の使用、心身の健康状態等について
- ・必要なケアを受けているかの確認（身体的、知的、発達障害等）
- ・心にストレスをかかえていないか（避難生活での不安や環境変化への対応が困難など）

○子どもが誰といるかを把握する

- ・誰が子供の面倒を見ているかを把握しておく。

○気になる子どもの言動等の様子を把握する

- ・下痢や食欲低下などの体調の変化や、泣く、怒る、爪かみ、チックなどが見られた場合は様子を見て、保護者に伝えたりし、必要に応じて医師への相談等の調整を行う。

2. 子どもの生活環境を把握し、生活リズムを整える。子ども同士の安全な遊びの場を確保し、子どもらしい日常生活が送れるようにする。

○子どもの生活の場と生活状況から、子どもの把握や環境調整を行う。

- ・食事や睡眠が規則正しく取れ生活リズムが整うようにする。閉鎖空間や恐怖からトイレを控えてしまうことのないよう、子どもの気持ちを配慮して、不安にならないよう努める。食事面では、保護者にアレルギーがあるか確認をしておく。
- ・生活環境の変化により、ストレスを感じてしまうことからストレス発散をする機会があるかの確認。
- ・コロナ感染予防を含め、空気の入れ替え等、衛生面に留意し、また感染予防に努める。

○子ども一人ひとりの発達が様々であり、環境の変化への対応が困難なことがあるため安心して過ごせるよう遊びの場の確保をする。

- ・日中十分に体を動かして遊べる環境を確保する。
- ・室内にも、遊びの場を確保する。また、ブロックや紙、ペンなどの遊びに必要な玩具を準備しておく。
- ・遊んでいる場で、子どもが安全に遊べるよう監督する人が必要である。特に外で遊ぶ際には遊び場の安全確保に注意する。
- ・危険がわからず、周りに迷惑をかけてしまう子どももいるので、危険である場所等には、目で見てわかるようにし、保護者とも連携しておく。

○食中毒や熱中症対策など、季節の変化に応じた健康管理を行う。

- ・子どもは脱水症状を起こしやすいので、水分補給ができるようにする。

3. 子どもと過ごす保護者が、子どもがいることで周りに気を使い、ストレスを感じることもあるので、保護者の困り感などを聞き、負担を軽減できるようにする。